

テーマ	標準原価計算（Ⅲ）						
学籍番号							氏名

1. 次の資料にもとづいて、製造間接費の差異分析を行いなさい。また、各差異には有利差異か不利差異かを示しなさい。

〔資料〕

(1) 予算及び標準データ

- ① 月間の正常（基準）直接作業時間 1,000 時間
- ② ①における変動製造間接費予算 ￥300,000
- ③ ①における固定製造間接費予算 ￥250,000
- ④ 製品 1 個あたりの標準直接作業時間 5 時間

(2) 当月の実際データ

月初仕掛品	40 個	(0.5)	※ () 内は加工進捗度を示す。
当月投入	<u>210 個</u>		
合計	250 個		
月末仕掛品	<u>50 個</u>	(0.2)	
完成品	200 個		
製造間接費実際発生額	¥550,000	(実際直接作業時間 975 時間)	

(3) その他

- (1) 製造間接費の製品に対する配賦基準は直接作業時間とする。
- (2) 製造間接費の予定配賦率と標準配賦率は等しいものとする。
- (3) 製造間接費の差異は、予算差異・変動費能率差異・固定費能率差異・操業度差異に分けなさい。

予算差異	円	() 差異
変動費能率差異	円	() 差異
固定費能率差異	円	() 差異
操業度差異	円	() 差異
総差異	円	() 差異

授業の感想など	
---------	--

テーマ	標準原価計算（Ⅲ）						
学籍番号							氏名

2. 製品 Y を量産する K 工場では、パーシャル・プランによる標準原価計算を採用している。下記の資料に基づいて(1) 原価標準（単位あたり標準原価）、(2)直接材料費の消費量差異、(3)直接労務費の直接作業時間差異および(4)製造間接費の予算差異を計算しなさい。また、(5)仕掛品勘定の（ ）内に適切な数字を記入しなさい（原価差異には、直接材料費、直接労務費および製造間接費の総差異の合計額を記入すること）。

〔資料〕

① 当月の生産に関する資料

当 月 製 品 完 成 量 ： 500 単位

月 末 仕 掛 品 量 ： 100 単位（1/2）

（注）直接材料は工程の始点で投入される。（ ）内の数値は加工進捗度を示している。月初仕掛品はなかった。

② 当月の実際発生額に関する資料

直 接 材 料 費 ： 30,000,000 円（実際消費量 30,000kg）

直 接 労 務 費 21,210,000 円（実際直接作業時間 42,500 時間）

製 造 間 接 費 ： 10,525,000 円

③ 当月の標準と予算に関する資料

直接材料費の標準消費価格 ： 970 円/kg

直接材料費の標準消費量 ： 49kg/単位

直接労務費の標準消費賃率 ： 510 円/時間

直接労務費の標準直接作業時間 ： 80 時間/単位

製 造 間 接 費 月 次 予 算 ： 10,578,000 円

（注）製造間接費は直接作業時間を基準として製品に標準配賦されている（月間基準操業度＝43,000 時間）。

(1)		円/単位	
(2)		円	()
(3)		円	()
(4)		円	()

（注）(2)～(4)の（ ）内には、借方差異の場合は借方、貸方差異の場合は貸方と記入すること。

(5)

仕 掛 品			
直接材料費	()	完成高	()
直接労務費	()	月末有高	()
製造間接費	()		
原価差異	()		
	()		()

授業の感想など	
---------	--